

大地震列島襲う

東北地方太平洋沖地震

列島を襲った観測史上最大規模の地震
人的被害なしも市民生活に影響を及ぼす

3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とする強い地震が発生した。宮城県栗原市で震度7を記録するなど、日本の広い範囲で激しく揺れた。気象庁によると、震源の深さは24^キ。地震の規模を表すマグニチュード(M)9.0は、国内観測史上最大の大地震となった。また、地震に伴い、太平洋沿岸では10^ミを超える大津波が発生。押し寄せる波はまちをのみ込み、建物などをがれきの山に変え、多くの尊い命を奪った。

警察庁の3月30日午後9時現在発表では、この地震と津波による死者は1万1362人、行方不明者は1万6290人以上に上っている。

八幡平市は、最大震度5強を観測。この地震で、一部建物の破損などの被害が出たり、市内全域の停電など、ライフラインが寸断されたりしたもの、幸いにも死傷者などの人的被害はなかった。しかし、今なお余震が続く中、物流が正常に回復していないため、ガソリンの供給不足でガソリンスタンドには長蛇の列ができるなど、市民の生活に影響を及ぼしている。市は、発生直後に災害警戒本部を設置し、切り替えた災害対策本部を現在も継続している。



地震発生後間もなく、市内全域で停電。信号が停止するなど、交通網が乱れた。市内全域に明かりが戻ったのは、13日の午前中だった（写真＝11日午後4時20分ごろ、大更上町交差点付近）



市内で唯一避難所を開設した大更公民館には、最大60人が避難。寒さと余震に耐えながら夜を明かした（写真＝3月11日夜）

一日も早い被災地の復興をみんなで願っていることから支援の「輪」を広げよう

被災県の中で被害が最小限であった八幡平市は、一日も早い復興に向けて、津波で甚大な被害を受けた沿岸をはじめとする自治体への支援を開始している。姉妹都市である宮古市には、米や水、日用品など生活物資を送った。他の自治体にも同様に物資を提供したり、人的支援を行ったりしている。避難所生活が長引くことを想定し、市民の皆さんから支援物資として米の提供を受け付けた。

また、市内企業の肉の横沢や北館製麺は、被災地を訪れ、豚汁やそばなど温かい食事を提供した。市内のホテル、ペンション、民宿の若手関係者で作る「八幡平観光協力者の会・若者風」は温泉のお湯を宮古市に運び提供した。市内のさまざまな団体は義援金を送った。復興への願いを込めた支援の輪はいたるところで広がっている。



市では、支援物資として白米を市民の皆さんから3月28日から4月4日まで受け付け。多くの市民が提供に訪れた



田頭小の児童は、自分たちで育てた米を道の駅にしねで販売した売り上げの一部を義援金として市社会福祉協議会に寄付した（3月18日）



↑3月15、17、18、24日に米や水、味付け卵など支援物資をトラックに載せ、姉妹都市の宮古市に搬送した



↓3月17日には田村正彦市長も支援物資の搬送に同行し、必要な物などの確認を行った

震災による生活information

（4月1日現在）

- 市役所業務 通常業務開始（3月14日～）
- 交通
 - ①コミュニティバス＝通常運行②岩手県北バス＝盛岡⇄八幡平市方面は通常運行（3月16日～）、盛岡⇄安比高原は全線運休③JR花輪線＝おおむね通常運転（4月1日～）
- ごみ 通常通り回収（4月4日～）
- ※全世帯に配布している分別収集日程表を確認ください
- 避難してきた人の情報提供を
 - 安否確認のため、被災地から避難してきた人の情報(名前など)を収集しています。
 - 詳しくは、市役所市民課（☎・内線1134）、松尾・安代総合支所地域振興課（松尾＝☎・内線2103、安代＝内線3120）
- 避難生活をする上での各種相談は
 - ①医療、健康相談＝市役所保健課（☎・内線1141）②福祉相談＝市役所地域福祉課（☎・内線1161）③就学支援＝教育委員会事務局学校教育課（☎・内線2316）

※最新情報は市ホームページで確認ください
<http://www.city.hachimantai.lg.jp/>